

つやまっ子に贈る100冊の本



つやまっ子読書プランキャラクター「ぶっくちゃん」

西の魔女の生き方が 教えてくれること



推薦者

山田 史子さん(林田)

わたしが勤務している北陵中学校では、子どもたちと一緒に教員も10分間の朝読書をしています。そこで手に取ったのが、映画化もされた『西の魔女が死んだ』です。

主人公のまいは中学校に入学したばかりのころ、不登校になってしまい、しばらくの間おばあちゃんの元で2人で暮らします。そこでまいは「魔女」になるための修行をすることに。慌ただしい現代社会に対して、あふれるような自然とおばあちゃんの丁寧な暮らしが対照的に描かれています。物語の情景が目につかび、このお話の持つ世界観にぐん

ぐんと引き込まれてしまいました。

自分自身も慌ただしい毎日を過ごしていますし、微妙な人間関係に疲れてしまったまいの気持ちにも共感できます。「流されて生活するうちに、何か大切なものを忘れてしまっ

てはいないだろうか」と気付かされるお話です。

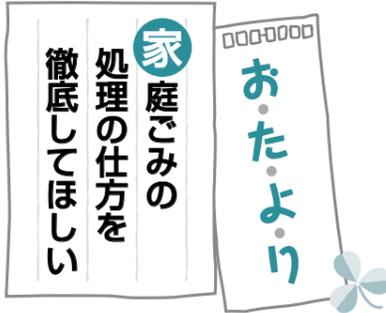
「魔女修行」とは、自分の道を自分で決め、自分をコントロールできるようになること。大人でさえ成長しきれない人が多い世の中、「大人になること」を「魔女修行」と表現したものすばらしいと思います。

まいと同じ年代の女の子には、ぜひ読んでほしい作品ですね。

「西の魔女が死んだ」



梨木香歩著(小学館)



家庭ごみは焼却せず、有料ごみ袋を使用し、指定日に出すことになっていますが、定着したとは言えない現状が残念です。近所で野焼きをしているのを見ても、トラブルになるのが怖くてなかなか注意できません。再度、家庭ごみの指導の徹底をお願いします。(下横野・女性)

ごみの処理の仕方が分からなくて困っています。農薬のビンとかポリ袋などは、分別

方法を表示してあるので分かりませんが、内側に銀紙がはつてある紙袋などは分別方法が分からず、仕方なく田んぼで焼いています。どうしたらよいのでしょうか。(院庄・男性)

家庭ごみの野焼きは禁止されています。近所同士で注意しにくい場合は、連絡してもらえれば市から指導に向かいます。

また、分別方法が分からない場合には遠慮なく環境事業所☎22・8255に問い合わせてください。

今回の銀紙の場合は、紙袋からきれいながれ、銀紙だけになれば燃えないごみ、紙袋からはがれなければ、紙袋ごと燃えるごみとして出してください。

家庭ごみの野焼きは周りの人に迷惑を掛けます。絶対にしないでください。



問い合わせ先 環境生活課 ☎32・2055

きらめく津山人

木のぬくもり、もっとみんなに伝えたい

美作国チエンソーカービングクラブ 会長

片岡 伸吾さん(加茂町小瀬)



7月24・25日にもえぎの里あは交流館で開催される第7回チエンソーアート岡山大会2010を主催し、地域づくりに尽力している片岡さんにお話を伺いました。

チエンソーカービングとは?

動物や植物をモチーフに1本の丸太をチエンソーで削って作品を仕上げているアートです。競技会では制限時間内に作品を仕上げなければならぬ「世界一危険なアート」といわれています。

始めたきっかけは、6年前にノースヴィレッジで行われた第

1の扱いは細心の注意を払っていますし、木片が飛び散りますから、制作者はもちろん、見学者がけがをしないようにいつも気を付けています。また、チエンソーの刃に使う潤滑油も植物性の自然に還りやすいものを使っているんですよ。

大会当日は全国各地から国内トップクラスのカーバー(制作者)が集まり、その腕を競い合います。1時間30分で作品を仕上げ、クイックカービングと、4時間でじっくり仕上げるメインカービングを行い、観覧もできます。完成した作品は最終日にオークションを行うので、ぜひ見に来てください。

魅力は何でしょうか?

直接、木に触れることができるところですね。玄関先とか庭先に木の置物があるだけで、なんだかホッとしたり、心が和んだりしますよね。この木のぬくもりを作品の制作を通して皆さんに伝えることができる場所です。

今後の目標は?

おこがましいですが、地域と地元産業の活性化です。最近、子どもたちはもとより、わたしたち大人も草木や野

1回岡山大会を見たこと。「1本の丸太からこんな素晴らしい作品ができるのか」と感動してしまい「僕にもできるかな?」と家族を説得して、すぐに競技用のチエンソーを買ってしまいました(笑)。

「芸術的センスがないお父さんが」と家族から言われながら、苦勞の末、処女作で驚かされたものを作って家族に見せると、意外にも好評でした。

やはり物事を始める時は「やってみよう。やってみようかな? やってみよう。やろう! やった!!」のチャレンジ精神が大切だと思います。

練習は毎月第2日曜日にもえぎの里あは交流館で行っています。冬期は休みますが、最近は見学者が増えてうれしく思っています。

制作には安全と自然への配慮に気を付けています。チエンソ



▲自宅作業所でフクロウを彫る片岡さん

山といった自然に触れる機会が少なくなっています。この大会を通じて少しでも多くの人に自然に対して興味を持ってもらえたらと思っています。そして、津山を訪れる人が少しでも増えて地域が盛り上がりつつあるといいなと思っています。

また、森林産業が少しでも活性化するように、木のぬくもりの良さを理解してもらって、木材の消費が少しでも広がるような活動がチエンソーカービングを通してできればいいなと思っています。

人懐っこい笑顔で冗談を交えながら丁寧に語る片岡さん。言葉の端々から自然や地域に対する愛情と情熱が伝わってきました。大会に多くの人が訪れ、作品に触ってもらって、木のぬくもりを肌で感じてもらえるといいですね。